



# Top Message

ごあいさつ

事業競争力の向上と、体質強化による  
経営基盤の再整備に注力し、  
将来の好機を逃さぬように  
備えてまいります。



代表取締役社長

佐藤 廣 士

## 当期のご報告

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

本年4月1日に、私、佐藤廣士が代表取締役社長に就任いたしました。非常に厳しい経済環境の中で、果たすべき責務の大きさを痛感いたしますとともに、今後の社業の発展に全力を傾注いたす所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、当社グループの第156期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)における取組みならびに連結業績についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、第2四半期まではエネルギー・原材料をはじめとする資源価格高などの影響により停滞し、第3四半期以降は、米国に端を発した金融危機が实体经济へ悪影響を及ぼし、景気は急速かつ大幅に悪化しました。また、海外においても、これまで成長を維持してきた中国や中東、ロシアなども含め、世界全域で景気は悪化しました。

このような環境のもと、当社グループにおいては、第2四半期までは景気停滞の影響が一部の事業で見られたものの、総じて堅調な需要を背景に、鉄鋼をはじめとする各事業で、原材料価格の上昇に対応し、販売価格への転嫁を進めました。しかしながら、第3四半期以降は、電力卸供給事業を除く各事業で需要が急激に減少し、

これに伴い、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業などにおいて、かつてない大幅な生産水準の低下を余儀なくされました。

これらを背景に、当期の連結業績は、売上高は前期並みの2兆1,772億円となりましたが、営業利益は前期に比べ854億円減益の1,169億円、経常利益は前期に比べ970億円減益の608億円となりました。また、特別損失として投資有価証券評価損および一部の固定資産について減損損失を計上したことに加え、繰延税金資産の取崩しを実施したことなどから、税引き後の当期純損益は前期に比べ1,203億円減益の314億円の損失となりました。

当期の期末配当につきましては、当期純損益が大幅な赤字となったことや、今後も厳しい経営環境が続くものと予想されることなどを総合的に勘案し、誠に遺憾ではございますが、見送ることとさせていただきます。これにより当期の配当は、中間配当として実施いたしました1株につき3円50銭となりますが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当期は「2006-2008年度グループ中期経営計画」の最終年度でありました。

業績面について総括しますと、最終年度の利益目標を初年度

に達成し、2年目にあたる平成19年度も高い利益水準を継続したものの、当期の利益は、事業環境の激変の影響を受け、目標を大幅に下回る結果となりました。

一方、基本方針に掲げた「オンリーワン製品」の拡販・創出、「ものづくり力」の強化については、鋼材やチタン製品において当社技術を評価され、新たな用途を拡大できたことや、当社が培ってきた技術である改質褐炭の実証プラントを立ち上げたことなど、一定の成果をあげ、将来の成長につながる布石も着実に打つことができました。

## 今後の取組みについて

平成20年度半ばからの事業環境の急激な変化と先々の不透明感から、今後の中期的な数値目標を設定することは見送っております。新たな中期経営計画は、今後の状況を睨みつつ、しかるべき時期になりましたら、発表させていただく所存ですが、これまで掲げてきた「オンリーワン」と「ものづくり力」をキーワードに、事業競争力を強化し、持続的成長を追求していくという方針は、今後の中長期的な経営戦略においても変わることはありません。あわせて、現下の経済動向と事業環境を踏まえた喫緊の課題、すなわち、コスト競争力の強化、生産体制の最適化、キャッシュフローの拡大などにも重点的に取り組んでまいります。特に、収益改善に向けては、昨年末に立ち上げた、グループ横断組織「収益改善委員会」を中核として、徹底したコスト削減に取り組んでまいります。

当面は厳しい環境での事業運営を余儀なくされますが、こうした事業競争力の向上と、体質強化による経営基盤の再整備に注力し、将来の好機を逃さぬように備えてまいります。

また、当社グループは、企業としての社会的責任を果たしていくことが、会社経営の大前提であると認識しております。しかしながら、本年2月、当社の複数の事業所において、当社労働組合

の推薦する地方議会の議員候補者の後援会に対し、その活動費用の一部を肩代わりするという不適切な支出が長年にわたりに行なわれていたことが判明いたしました。当社では、株主の皆様からの信頼回復に向け、現在、再発防止策を策定し、これに全力で取り組んでおります。この再発防止策では、コンプライアンスリスクを自ら抽出し、対応策を検討する「コンプライアンス感度の高い組織」とコンプライアンス問題を放置しない「規律意識の高い企業風土」の構築を基本方針に掲げました。この基本方針のもと、具体的な取組みとして、「制度・しくみ」、「教育・啓発」、「組織・体制」の視点から、リスク管理活動の見直しと実践、法令教育・研修の充実、過去の自社事例に学ぶ取組み、各拠点へのコンプライアンス統括室の兼務者配置と本社スタッフによるリスク管理活動の進捗確認などに着手しています。

当社は、これらの取組みを通じて、持続的な企業価値の向上を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜われますようお願い申し上げます。

平成21年6月

### 神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

# 事業分野 Business Field

## 神戸製鋼グループ

### 鉄鋼関連事業

普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼厚板、中板、薄板(熱延・冷延・表面処理)、鋼片、  
鋳鍛鋼品、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用鋇、製鋼用鋇、  
スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、  
各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス、  
溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、  
溶接関連試験・分析・コンサルティング業

### 電力卸供給事業

電力卸供給

### アルミ・銅関連事業

飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、  
各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔、  
半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、  
復水管、空調用銅管、  
アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳造品、アルミ加工品

### 機械関連事業

製鉄プラント(還元鉄・圧延等)、各種プラント(非鉄・ペレタイジング・石油化学等)、  
エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、砂防・防災製品、  
土木工事、新交通システム、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、  
真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、  
各種環境プラント、資源再生、冷却塔、各種内燃機関、搬送機器

### 建設機械関連事業

油圧ショベル、ミニショベル、  
ホイールローダ、クローラークレーン、  
ラフテレーンクレーン、作業船

### 不動産関連事業

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、  
不動産賃貸・ビルマネジメント、  
マンション管理

### 電子材料・ その他の事業

特殊合金他新材料(ターゲット材等)、  
各種材料の分析・解析、高压ガス容器製造業、  
シリコンウエハーの再生研磨・販売、  
超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

## 連結

### 売上高

**2兆1,772 億円**  
(前年同期比 +2.1%)



### 営業利益

**1,169 億円**  
(前年同期比 △42.2%)



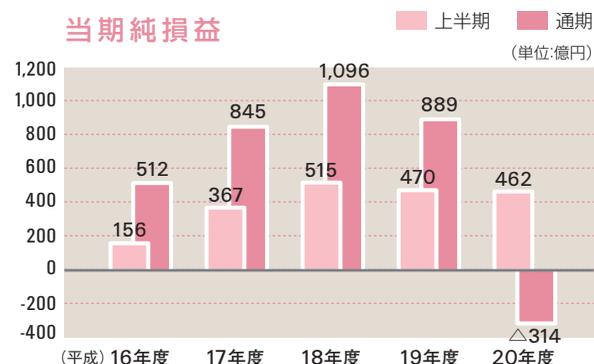
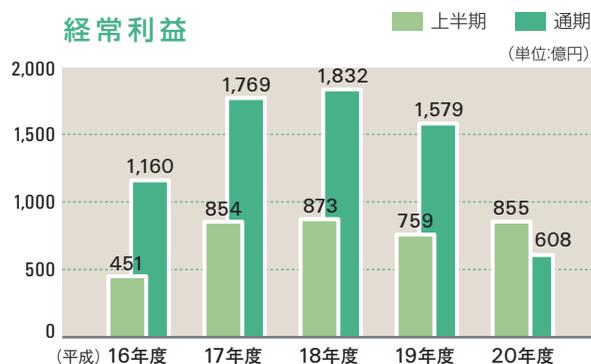
### 経常利益

**608 億円**  
(前年同期比 △61.5%)



### 当期純損益

**△314 億円**  
(前年同期比 -)



(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

## 当期の概況

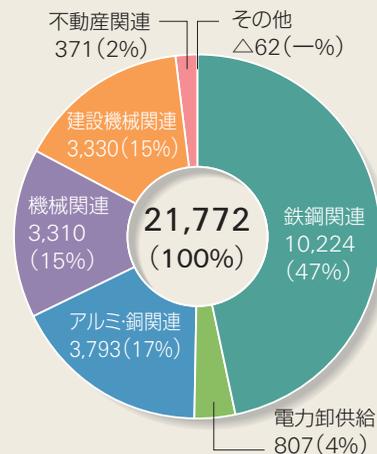
当期のわが国経済は、第2四半期まではエネルギー・原材料をはじめとする資源価格高などの影響により停滞し、第3四半期以降は、米国に端を発した金融危機が実体経済へ悪影響を及ぼし、景気は急速かつ大幅に悪化しました。また、海外においても、これまで成長を維持してきた中国や中東、ロシアなども含め、世界全域で景気は悪化しました。

このような環境のもと、当社グループにおいては、第2四半期までは景気停滞の影響が一部の事業で見られたものの、総じて堅調な需要を背景に、鉄鋼をはじめとする各事業で、原材料価格の上昇に対応し、販売価格への転嫁を進めました。しかしながら、第3四半期以降は、電力卸供給事業を除く各事業で需要が急激に減少し、これに伴い、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業などにおいて、かつてない大幅な生産水準の低下を余儀なくされました。

これらを背景に、当期の連結業績は、売上高は前期並みの2兆1,772億円となりましたが、営業利益は前期に比べ854億円減益の1,169億円、経常利益は前期に比べ970

億円減益の608億円となりました。また、特別損失として投資有価証券評価損および一部の固定資産について減損損失を計上したことに加え、繰延税金資産の取崩しを実施したことなどから、税引き後の当期純損益は前期に比べ1,203億円減益の314億円の損失となりました。

事業別売上高  
(平成20年度)  
(単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高551億円と事業間の内部売上高等の消去額△614億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△62億円となっております。

## 事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)

### 鉄鋼関連事業

10,224 億円  
(前年同期比 +10.7%)



上半期は堅調も、  
下半期に入り需要は  
急減しました。

- 鋼材需要は、上半期までは堅調も、下半期に入り、造船を除く分野で急激に減少し、鋼材出荷量は前期を下回る。
- 販売単価は、原材料価格の大幅な値上りに対応し、製品価格への転嫁を進め、前期を上回る。
- チタン製品、溶接材料の需要も、上半期は堅調も、下半期に入り減少。

- 鋳鍛鋼品は、造船向けを中心に旺盛な需要が継続。
- 営業利益は前年同期比141億円減益の777億円。



神戸製鉄所



## 電力卸供給事業

807 億円  
(前年同期比 +12.3%)



安定操業を継続しています。

- 電力単価に転嫁される石炭価格の上昇により、売上高は増加。
- 法人税法の改正に伴い、機械装置の耐用年数の変更を行なったことにより減価償却費が増加したことから、営業利益は前年同期比7億円減益の172億円。



神鋼神戸発電所からの夜景



## アルミ・銅関連事業

3,793 億円  
(前年同期比 △15.7%)



飲料缶用アルミ圧延品は堅調も、  
その他の分野の需要が  
減少しました。

- 飲料缶用アルミ圧延品は堅調。
- 自動車や液晶・半導体関連向けを中心に需要が減少し、圧延品全体の販売量は前期を下回る。
- 銅圧延品の販売量は、電子材料用銅板条の需要が減少し、前期を下回る。
- アルミ鑄鍛造品の売上高も自動車向けを中心に減少し、前期を下回る。
- 販売単価に転嫁される地金価格も下落したため、当事業の売上高は前期比減少。
- 営業損益は、販売数量の減少と地金価格下落による在庫評価影響が収益を押し下げ、前期比488億円減益の268億円の損失。



アルミ缶



## 機械関連事業

3,310 億円  
(前年同期比 +9.5%)



LNG関連機器、  
大型圧縮機の受注は  
堅調でした。

- LNG関連機器、大型圧縮機の受注は堅調。
- 下半期に入り自動車、石油精製・石油化学業界の設備投資の低迷により、関連製品受注が減少。還元鉄プラントでも案件の一部に計画延期が発生。
- 国内受注高は前期比18.5%減の1,284億円、海外受注高は前期比39.5%の1,101億円。
- 事業全体の受注高は前期比29.8%の2,385億円、受注残高は3,188億円。
- 営業利益は資材材価格高騰により9億円減益の295億円。



非汎用圧縮機



## 建設機械関連事業

3,330 億円  
(前年同期比 △2.0%)



一部地域で需要に  
減速が見られました。

- 油圧ショベルの需要は、国内、米国、欧州向けが前期を下回ったものの、中国向けは減速したものの前期を上回る。
- クレーンについては、国内や中東向けが下半期に減少も、北米向けは依然好調に推移。
- 営業利益は資機材価格高騰により115億円減益の112億円。



シティコンシャスクレーン  
「PANTHER-X250」



## 不動産関連事業

371 億円  
(前年同期比 △16.2%)



不動産販売が低迷しました。

- 不動産販売の事業環境が悪化し、売上高は減少。
- 営業利益は前期比30億円減益の18億円。



「ジークレフ豊中緑丘レジデンス」

電子材料・  
その他の事業

551 億円  
(前年同期比 △9.2%)



液晶パネル向け需要が  
減少しました。

- 液晶パネル需要の減少により液晶配線膜用ターゲット材の販売量が減少し、売上高が減少。
- 営業利益は、売上高の減少に伴い、前期比50億円減益の31億円。



ロアームの  
弾性応力解析

ターゲット材



## 工場見学会のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。今回ご覧いただく工場は、鑄鍛鋼品や機械を製造しております高砂製作所(兵庫県高砂市)でございます。つきましては、下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

見学工場:高砂製作所

(兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3-1)

対象者:平成21年3月31日現在、  
当社株式1,000株以上を  
ご所有の株主様



### 工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成21年)	集合場所	集合時間	解散場所・予定時間
①	11月11日(水)	JR加古川駅近辺	8:45	JR加古川駅近辺 13:00頃
②	11月11日(水)	JR加古川駅近辺	13:15	JR加古川駅近辺 17:30頃
③	11月12日(木)	JR加古川駅近辺	8:45	JR加古川駅近辺 13:00頃
④	11月12日(木)	JR加古川駅近辺	13:15	JR加古川駅近辺 17:30頃

※JR加古川駅は、JR山陽本線(JR神戸線)沿線

※JR加古川駅までの所要時間:JR三ノ宮駅から新快速で約30分  
JR大阪駅から新快速で約60分

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

募集人数:240名(各回60名)※募集人数には同伴者を含みます。

※応募人数が多い場合には抽選とさせていただきます。

予めご了承いただけますようお願い申し上げます。

抽選の結果は8月末にご通知いたします。

応募方法:同封のはがきに必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

【締切日:平成21年7月24日(金)当日消印有効】

参加費:無料

※ただし、集合・解散場所(JR加古川駅)までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

昼食:軽食とお飲み物をご用意させていただきます。

その他:工場見学ルートは、徒歩での移動となります。

(何力所か階段がございます。)

### お問合せ先

株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係

TEL 078-261-4066

受付時間 10:00~17:00(土・日、祝日、年末年始を除く)

## 株主様工場見学会開催のご報告

平成21年3月14日(土)、3月15日(日)の2日間にわたり、株主様工場見学会を当社真岡製造所(栃木県真岡市)にて開催いたしました。全国各地より約1,200名の応募をいただき、ありがとうございました。初日は大荒れの天候となり、ご不便をおかけしましたが、2日間で、抽選により当選された122名の株主様および同伴者様に、アルミの溶解炉から飲料缶用板材の圧延工程、

製品展示室をご見学いただきました。当社といたしましては、より多くの株主様に当社グループの事業をご理解いただけるよう、今後もこうした活動に取り組んでまいりたいと考えております。



真岡製造所工場見学会の様子

● 鉄鋼関連事業

● 機械関連事業

2008 (平成20年)

5月

機械関連事業

### 省エネ・CO<sub>2</sub>排出低減型 蒸気駆動エアコンプレッサシステムの共同開発について三浦工業株式会社と合意

産業用蒸気ボイラ大手の三浦工業株式会社と当社は、蒸気を動力源にして圧縮空気を製造する蒸気駆動式エアコンプレッサシステムの共同開発を行なうことで合意しました。

この共同開発の結果、両社は平成21年4月に世界で初めてとなる『圧縮熱回収蒸気駆動式エアコンプレッサ』の販売を開始しました。新たに開発したエアコンプレッサは、従来の電動モータ駆動式のエアコンプレッサに比べて、ランニングコストは約85%、CO<sub>2</sub>排出量は約90%も低減させることが可能となり、究極の省エネとCO<sub>2</sub>排出削減を実現します。



圧縮熱回収蒸気駆動式エアコンプレッサ

9月

### ● 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が開発中の宇宙輸送機へ当社チタン合金製品の採用が決定

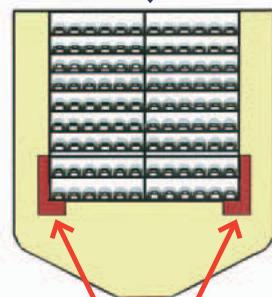
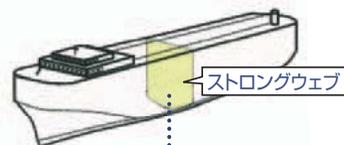
### ● 自動車用途の超ハイテン材のロールフォーム技術に関する包括技術契約をオーストリアのフェストアルピーネ・クレムス社と締結

11月

鉄鋼関連事業

### インドのエサール社と包括提携契約締結

インドの鉄鋼メーカー Essar Steel Limited (以下エサール社) と当社は、技術支援や鉄源補完等を視野に入れた包括提携を結ぶことに合意し、契約に調印しました。本契約の実行を通して、エサール社はより高品質な製品を効率的に生産・供給するための操業技術を習得し、インド市場でのプレゼンス向上を狙っていきます。一方、当社は、原料・鉄源の調達ソース拡大を図ると同時に将来のインド市場における高級鋼分野での事業機会を探っていきます。



降伏点 47kg級鋼板の適用部位

降伏点47kg級鋼板の適用部位

2009 (平成21年)

2月

鉄鋼関連事業

### 大型自動車運搬船に当社の降伏点47kg級鋼板が造船業界で初めて採用

今治造船株式会社と共同で、コンテナ船より強度の要求される大型自動車運搬船への、強度や粘り強さを高めた当社の降伏点47kg級鋼板への適用検討を進めてきた結果、平成20年12月に日本海事協会より実船適用の承認を得て、造船業界において初めて09年起工の大型自動車運搬船に採用されることが決定しました。この鋼板の使用により、板厚の低減、船体重量の軽減、溶接施工の効率向上が可能となるため、今後の用途拡大が期待されます。

※詳しい内容またはその他のトピックスについては、神戸製鋼グループホームページに掲載の「トピックス」をご覧ください。  
(ホームページアドレス <http://www.kobelco.co.jp>)



機械関連分野

## CO<sub>2</sub> 排出削減などの 省エネ要求にこたえる世界初の スクリュ式小型蒸気発電機「スチームスター<sup>®</sup>」



### スクリュ式小型蒸気発電機「スチームスター」

多くの工場、事業所では、発電用タービンの動力源として、あるいは、加熱・蒸留・乾燥・殺菌・洗浄などの各工程での加熱源として蒸気を利用しています。その際発生する余剰蒸気は有効利用されないまま大気放出されている場合があります。また、蒸気をさまざまな生産プロセスで使用する際にも、減圧弁で蒸気圧を抑えていたため、減圧時のエネルギーは有効に利用されていませんでした。当社では、未利用蒸気エネルギーを有効活用するため、世界最高水準の発電効率を備えたスクリュ式小型蒸気発電機を、2007年に世界で初めて開発し、販売を開始しました。近年、産業界においては、地球温暖化対策推進法や改正省エネルギー法の施行により、環境経営への取組みを強化すると同時に、一層の省エネ活動の推進に迫られています。スチームスターは、このようなユーザーの省エネ・CO<sub>2</sub>削減に対する要求に応え、低圧少量の蒸気でも効率良く発電できるのが特長で、大幅な省エネ・CO<sub>2</sub>削減（年間6,000時間稼働の前提で

440トン/年程度のCO<sub>2</sub>削減<sup>\*1</sup>）が可能となります。蒸気の従来以上の活用による省エネ、そしてCO<sub>2</sub>排出削減を実現する画期的なこの製品の優れた省エネ特性は、多方面で高い評価を頂き、2008年日本産業技術大賞で内閣総理大臣賞、平成20年度エコプロダクツ大賞でエコプロダクツ大賞推進協会会長賞（優秀賞）、平成20年度優秀省エネルギー機器表彰式で資源エネルギー庁長官賞を、連続受賞するという栄誉に浴しました。今後もより一層の技術開発と圧力の高い中圧分野（20気圧未満）へのメニュー拡大に取り組んでまいります。

#### \*1… CO<sub>2</sub>削減量の計算根拠

余剰蒸気の活用により発生させる電力量を、日本の火力発電設備で発電した場合に消費されるCO<sub>2</sub>量と比較試算したもの。

(1) 6,000時間/年 × 132kW/時 = 792,000kW/年

(2) 792,000kW × 0.555 = 439,560kg ≒ 440トン

注) 0.555とは環境省の地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条に規定されている発電端CO<sub>2</sub>発生原単位 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) の0.555を採用。

# 環境への取組みと 社会との共生



神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。環境経営委員会を設け、グループ全体で環境経営に取り組んでいます。

## ■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践による企業価値向上』  
—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループを目指して

1. 環境に配慮した生産活動

2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献

3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、環境力を高め企業価値を向上させる。

## ■環境マネジメントシステムの構築

神戸製鋼グループは、継続的かつ効果的に法令遵守および環境改善への取組みを推進するために、環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格「ISO14001」、環境省の「エコアクション21(EA21)」、こうべ環境フォーラムの「神戸環境マネジメントシステム(KEMS)」などの認証取得を奨励しています。

2008年度については、グループ会社3社が認証を取得し、重要な事業所として残すところ4事業所が、認証取得に向けて継続して取り組んでいます。なお、当社全事業所(11事業所)については環境マネジメントシステムの認証取得が完了しており、グループ会社についても合計45社が認証を取得しています。

## ■日本政策投資銀行から高い評価

当社は、平成21年日本政策投資銀行(DBJ)による環境格付\*において「環境への配慮に対する取組みが特に先進的」という最高ランクの評価を受けました。当社の環境管理体制強化や、エコプロダクツへの取組みが評価された結果です。



\*日本政策投資銀行の「環境格付融資制度」の一環で実施されるもの。企業の環境経営を評価し、3段階の格付に応じた、貸出金利が優遇される。

## ■廃棄物の再資源化でCJC会長賞を受賞

当社の長府製造所では、(財)クリーン・ジャパン・センター(CJC)が経済産業省の委託を受けて主催する、平成20年度「資源循環技術・システム表彰」で会長賞を受賞しました。本表彰は、廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化に資する優れた事業や取組みを表彰するものです。

長府製造所の受賞案件は、「非鉄金属加工工場における金属資源の最大活用」です。アルミニウム押出材や銅板の製造工程から発生する金属を含んだ汚泥などは、産業廃棄物として処理されてきました。長府製造所では、廃棄物の成分や処理方法を詳細に把握し、汚泥などに含まれる金属資源の有効活用を推進。総合排水汚泥から年間150tの金属銅を回収し、アルミニウム含有廃棄物からは年間300t(2007年)を有価再資源化するなど、資源循環の実現に大きく貢献しています。



資源循環技術・システム表彰 表彰式

## 社会貢献への取り組み

神戸製鋼グループでは、社会の一員として、地域住民の皆様との交流活動、地域社会への貢献活動に継続的に取り組んでいます。

### 地域との交流

神戸製鋼加古川体育館では、毎年春と夏の2回、「神鋼加古川杯少女バレーボール大会」を開催しています。多くの小学生バレーボールチームが出場し、加古川市のスポーツ振興の一つとして親しまれています。このほかにも、加古川製鉄所では養護・福祉施設との合同運動会も毎年開催しています。

また、当社グループの建設機械の教習事業を行なっているコベルコ教習所では、各地の教習所で近隣の小学生・保育園児を招待し、建設機械の見学会や体験試乗会、写生大会を実施しています。

### 灘浜サイエンススクエアの自然教室

神戸神戸発電所に隣接する当社グループの地域交流施設である「灘浜サイエンススクエア」(神戸市灘区)では、身近な自然との関わりを通じて、環境を大切にすることを育む「自然教室」を毎年様々なテーマで実施しています。平成20年度には、年間で18回開催し、約1,200名の方に参加いただきました。

夏休みには、新しいテーマとして「土壌生物観察」が加わりました。これは、落ち葉の中のミクロの世界をのぞいて、小さな生物が落ち葉を食べる様子を観察し、森のリサイクルを学ぶ体験学習です。

灘浜サイエンススクエアでは、自然教室のほかにも工作教室も開催しており、これからも様々なテーマをとりあげ、地域社会の皆さんとのコミュニケーションに努めてまいります。

## ラグビーを通じての活動

### ラグビーの普及活動

神戸製鋼コベルコスティーラーズは、ラグビー普及活動の一環として、全国各地の学校やラグビースクールなどを訪問し、指導を行なっているほか、ラグビー体験教室を通じて、多くの人にラグビーの楽しさを体験してもらっています。また、「全国高等学校合同ラグビーフットボール大会」を2005年より毎年開催するなど、ラグビーの普及活動とスポーツ振興に努めています。

さらに、地元神戸をはじめとした地域の様々なイベントに選手が参加し、地域との交流にも努めています。

### 募金活動

平成13年度より行なってきた、特定非営利活動法人「日本せきすい基金」への募金活動をジャパンラグビートップリーグ2008-2009の神戸製鋼コベルコスティーラーズ出場試合会場にて引き続き行ないました。

また、平成20年6月22日に神戸ユニバー記念競技場で行なわれた「神戸製鋼コベルコスティーラーズ対ワールドファイティングブル」戦の試合前に、ワールドファイティングブルと共同で、中国四川大地震、ミャンマーを襲ったサイクロンの被害にあわれた方々への募金活動を行ないました。集まった募金は、平成20年11月7日に財団法人日本ユニセフ協会に寄付いたしました。



募金活動の様子

# Corporate Data

## 連結子会社および持分法適用会社 [212社]

(平成21年3月31日現在)

### ■鉄鋼関連事業：60社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、  
神鋼建材工業株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、  
堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス、  
神鋼総合サービス株式会社、KOBEL ウェルディングワイヤ株式会社、  
エヌアイウエル株式会社、  
コウベ ウェルディング オブ コリア カンパニー リミテッド、  
※株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、神鋼鋼線工業株式会社、  
※関西熱化学株式会社、株式会社テザックワイヤロープ 他

### ■電力卸供給事業：1社

神鋼神戸発電株式会社

### ■アルミ・銅関連事業：28社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、  
サン・アルミニウム工業株式会社、神鋼ノース株式会社、  
神鋼メタルプロダクツ株式会社、  
コウベ プレシジョン テクノロジー センディリアン ベアハッド、  
シンガポール コウベ プライベート リミテッド、  
コウベ エレクトロニクス マテリアル(タイランド)カンパニー リミテッド 他

### ■機械関連事業：40社

株式会社神鋼環境ソリューション、コベルコ・コンプレッサ株式会社、  
神鋼造機株式会社、※コンプレホ シデルルヒコ デグアジャナ セアー 他

### ■建設機械関連事業：49社

コベルコ建機株式会社、コベルコクレーン株式会社 他

### ■不動産関連事業：8社

神鋼不動産株式会社 他

### ■電子材料・その他の事業：26社

株式会社コベルコ科研、神鋼 JFE 機器株式会社、  
コウベ スチール USA ホールディングス インコーポレーテッド、  
※神鋼商事株式会社、日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)※印は持分法適用会社であります。

## 取締役および監査役、執行役員

(平成21年6月24日現在)

取締役社長(代表取締役)  
佐藤 廣士

### ■本社

取締役副社長(代表取締役)  
松谷 高志  
専務取締役  
川田 豊  
専務取締役  
※藤原 寛明

常務執行役員  
泉 博二  
常務執行役員  
沖田 誠治  
常務執行役員  
関 勇一

執行役員  
金子 明  
執行役員  
花岡 正浩  
執行役員  
真部 昌平

### 【鉄鋼部門】

取締役副社長(代表取締役)  
※賀屋 知行  
専務執行役員  
大西 功一  
専務執行役員  
村瀬 敬一  
専務執行役員  
山口 育廣

常務執行役員  
公文 康進  
執行役員  
川崎 博也  
執行役員  
津村 拓良  
執行役員  
塚本 晃彦

執行役員  
尾上 善則  
執行役員  
梅原 尚人  
執行役員  
宮脇 新也

### ■溶接カンパニー

常務取締役  
※粕谷 強

執行役員  
高村 実朗

### ■アルミ・銅カンパニー

専務取締役  
※高橋 徹

専務執行役員  
下村 良介

執行役員  
濱中 龍介

### ■機械エンジニアリングカンパニー

専務取締役(代表取締役)  
※重河 和夫  
常務執行役員  
田中 順

常務執行役員  
毛利 修三  
執行役員  
植木 一秀

### ■社外取締役

取締役  
中野 淳司

取締役  
土居 征夫

(注)※印は、鉄鋼部門長および各カンパニープレジデントであります。

監査役(常勤)  
浅岡 徹  
監査役(常勤)  
大越 年祝

監査役(社外監査役)  
金子 崇輔  
監査役(社外監査役)  
池田 義一

監査役(社外監査役)  
佐々木 茂夫

## 会社の概要

(平成21年3月31日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 254,826名
- 従 業 員 数 9,932名

## 事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号  
☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号  
☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・  
新潟(新潟市)・北陸(富山市)・  
四国(高松市)・中国(広島市)・  
九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海外事務所 ニューヨーク・デトロイト・シンガポール・北京・上海  
(注)「海外事務所」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 <鉄鋼・溶接部門> 加古川・神戸・高砂・藤沢・茨木・西条  
<アルミ・銅部門> 真岡・長府・大安  
<機 械 部 門> 高砂・播磨

## 株主メモ

事 業 年 度 4月1日～翌年3月31日

定 時 株 主 総 会 6月

基 準 日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公 告 方 法 電子公告(当社ホームページをご覧ください。)  
<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

## 株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

### ①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

### ②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

<郵便物および電話でのお問い合わせ先>

〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土日祝日を除く9:00～17:00

※証券会社にお預けでない株式につきましては、「株券電子化」により、三菱UFJ信託銀行の「特別口座」にて管理しております。該当する株主様には2月中旬に特別口座を開設した旨のご通知をご送付いたしました。「特別口座」では株式の売買はできません。証券会社の口座へお移しになることをお奨めいたします。くわしくは、本書の最終ページをご参照ください。。

# 株券電子化後の手続き —「特別口座について」— ※ご一読ください

## 1. 「特別口座」とは

本年1月5日からの株券電子化により、上場会社の株式は、証券会社等を通じて証券保管振替機構（「ほぶり」）にて全てデータで管理され、株式の売買は株主様が開設された証券会社の口座間の振替えによって行なわれることとなりました。

ただし、以下の株式については、証券会社の口座がないため、株主様の権利を保全するため、当社にて三菱UFJ信託銀行株式会社に口座を開設し、管理をしております。この特別に開設した口座を「特別口座」といいます。

### 特別口座にて管理されている株式

- ① お手許に「株券」をご所有のままで証券会社にお預けにならなかった株式
- ② 証券会社にて「保護預かり」としてお預けになっていた株式
- ③ 登録株式（当社が株券を発行することなく、ご所有されていると「登録」のみさせていただいていた株式）

例えば、1,030株お持ちで、1,000株は証券会社にお預けの場合、30株については「登録株式」となっている可能性があります。ご自身の所有株式数を確認されるには、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせをお願いいたします。（③については、証券会社が口座に預託している場合があります。）

ご自身のご所有の株式が「特別口座」で管理されているかどうかは、当社の特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください（特別口座で管理されている

株式をお持ちの株主様には本年2月中旬に三菱UFJ信託銀行株式会社よりその旨のご通知をしております。）。

## 2. 「特別口座」と証券会社の口座との違い

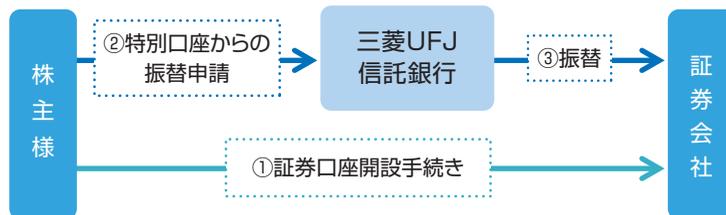
**特別口座にて管理されている株式は、そのままでは売却が出来ません**（単元未満株式の買取・買増の場合を除く）。その他、**名義書換えの手続きなども一定の制限がかかります**

ので、今後、株式にかかるお手続きを容易にするためにも、証券会社に口座を開設し、「特別口座」から証券会社の口座へお振替えになることをお奨めいたします。

## 3. 「特別口座」から証券会社の口座への振替方法

以下の手順にて、振替えることが可能です。

- ① 証券会社に株主様ご名義の口座を開設。
- ② 三菱UFJ信託銀行に振替申請  
（☎0120-094-777 通話料無料）
- ③ 三菱UFJ信託銀行が振替処理



# KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、無塩素漂白による、古紙/リサイクル紙15%、植林木・間伐材/リサイクル紙85%と、大豆油インキを使用しています。